

静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び評価結果(年度評価)

令和5年9月

静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課

1 施設名及び指定管理者名

静岡県舞台芸術公園 公益財団法人静岡県舞台芸術センター

2 指定期間

平成4年4月1日～令和9年3月31日(5年間)

3 指定管理業務評価の流れ

- (1) 令和4年度の指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。
- (2) 県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。
- (3) 自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。(開催日 令和5年9月19日)

【外部委員】

氏名	職名
岩崎 邦彦	静岡県立大学 経営情報学部 教授
梶田 美於	梶田美於バレエスタジオ 代表
小島 孝仁	株式会社 CSA 不動産 代表取締役社長
永井 聡子	静岡文化芸術大学 文化政策学部 教授
間宮 純也	有限会社春華堂 常務取締役

4 評価結果

(1) 外部委員による評価

ア 総合評価(5段階評価)

令和4年度実績は、評価点「4.1」、「よく実施した」と判断した。

【評価点】

1.0～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～5.0
実施しなかった	不十分な実施だった	概ね実施した	よく実施した	大変よく実施した

イ 評価に関する意見

- ポストコロナの新たな利用者ニーズに対応するための創意工夫や地域との連携を一層進めることによって、県民や来訪者に愛される個性ある公園になってほしい。
- 舞台芸術公園の認知度向上については、指定管理者として、まだできる事はある。例えば、県民月間は、より多くの団体に積極的に情報発信すれば、公園を使用してみたいという団体は増えると思う。
- 自然豊かで芸術の香りも漂う唯一無二の特別な公園だと思うが、関係者は同じ世界で生きている方が多く、一般には遠い存在。もっと顧客視点に立ち、全く別の業界の方と組むことである場所のポテンシャルはもっと活かせると思う。
- 企画事業の推進には公園オリジナルの企画が必要である。空間アドバンテージがあるという意味では企画の発信が達成されているようであるが、さらに、市民の声が聞こえる劇場となることに期待したい。
- 固定概念を取り払って、コンベンションアーツセンターと共同して事業計画を再構築し、新しい機会の創出、人材開発を行ってほしい。

(2) 県評価の概要

ア 総評

(公財) 静岡県舞台芸術センターは、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

イ 概要（提案項目別評価）

(ア) 効果的・効率的な管理

a 再委託業務経費の軽減化

- ・入札による競争性の確保及び複数年契約の導入と、効率的な園地管理の実施により、委託費の抑制につなげている。

b 施設の利便性・快適性の向上とPR

- ・SNSによる公園の何気ない日常についての情報発信、演劇ミニミュージアムの整備、公園のパンフレットや園地内の看板のリニューアルなど、新しい公園の魅力の創造と発信にも努めている。

(イ) 公園の特性や課題の認識及び県との協調連携

a 交通の利便性の確保

- ・利用者が増加する公演時に、関係者と連携して送迎バスの手配や駐車場の確保を行うことにより、利用者の利便性の向上を図り、満足度向上につなげている。

b 県との協調・連携

- ・県が推進するガストロノミーツーリズムの立寄り先として、県施策と連携した事業を進めるとともに、日常的に連絡を取り合い適切な施設管理を行っている。

(ウ) 維持管理

a 維持管理計画

- ・年間計画に基づいた維持管理を着実にを行うとともに、自然災害・老朽化による施設設備の不具合等に対し優先順位を整理しながら適切な予算執行により業務を遂行している。
- b 警備・美化清掃
 - ・常駐の委託業者やスタッフと定期的な打合せの場を設けて連携体制を整え、来園者の安全管理と公園の景観維持につなげている。
- c 設備の維持管理
 - ・常駐の委託業者やスタッフとの密な連携構築と、担当者の細やかな管理により、利用者アンケートの満足度の高さにつなげている。

(エ) 施設の破損や災害等に対する対応

- a 施設修繕への対応
 - ・関係者間で施設の維持管理についての重要性を共有し、計画的な対応に努めた。
- b 災害・緊急時等への対応
 - ・計画に基づき適正に対応した。

(オ) 職員・常駐業者の能力育成

- a 施設の技術的な維持管理
 - ・年間を通じて事故は発生せず、技術スタッフにより舞台設備等の適切な維持管理が行われていると認められる。
- b 園地管理的な維持・管理業務
 - ・職員はアンケート等から施設利用者等のニーズを随時くみ取り、それを園地管理に適時的確に伝達する連絡・連携体制を構築することで、適切な対応が図られていると評価する。

(カ) 施設等の使用団体との調整

- a 使用団体との調整
 - ・県民月間での使用団体からの要望に対応できる体制を整え、コロナ禍においても県内演劇団体の活動を支える取組が進んでいると評価する。
- b 使用団体の要望に対応する体制
 - ・SPACの技術スタッフが、使用団体のスタッフの希望に応じ技術面での助言をするなど、次世代育成に繋がる対応を評価する。

(キ) 地域との連携

- a 地域との連携
 - ・地域のボランティアと協力して園地の景観を維持しているほか、学校の校外学習への協力や、食と絡めたイベントの開催等、様々な団体との連携が進んだ。
日本平の存する歴史・文化・観光・宿泊施設など、舞台芸術関係者以外とのさらなる連携の広がり、日本平地域全体の魅力が増すことで公園の認知度も向上することに期待する。